

【武豊町】

校務 DX 計画

令和 5 年 3 月 8 日に文部科学省で、G I G A スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議の提言（G I G A スクール構想の下での校務 DX について～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高速化を目指して～）をとりまとめ、次世代の校務 DX の方向性が示されたところである。

ここでは、現在の校務情報化の課題、今後数年にかけて次世代の校務支援システムの整備やクラウド活用を前提とした G I G A スクール環境の積極的な活用といった次世代の校務 DX の方向性、今後取り組むべき施策が記載されている。

武豊町では、校務 DX についての現状と、次世代の校務 DX の充実のため以下のような対策をしていく。

（１）校務 DX の推進について

校務 DX の推進に向け、今までどおり 2 校あたり 1 名の ICT 支援員を引き続き配置し、教職員の ICT の知識の向上や、授業での ICT 機器の活用を促進していく。

教職員の研修・会議等については、配布しているタブレットや大型提示装置を利用して行なう。また、今後新たな授業支援クラウドを導入することで、教職員と児童生徒双方向がタブレット上でやりとりすることで、児童生徒の授業理解の促進を図るとともに、更なるペーパーレス化につなげていく。

（２）保護者との情報共有の強化

令和 6 年度に小中学校全校に導入した、保護者との連絡ツール「Home&School」を活用し、欠席連絡をデジタル化することで、迅速かつ簡単に保護者が学校へ連絡できるようになった。さらに、同じツールを使用して保護者への配布物も可能なものはデジタル化し、電子的に配信することで、配布物の紛失や未受領のリスクを軽減し、保護者が必要な情報にいつでもアクセスできる環境を整備している。これにより、大量の印刷や紙の配布などの手間が省け、コスト削減も期待でき、ペーパーレス化につながる。

（３）FAX・押印の見直し

現在、全ての学校で FAX を活用している。また、保護者・外部とのやりとりで押印・署

名が必要な書類があるため、FAX や押印等についての見直しを、今後行っていくとともに、FAX での送付や押印を求めている関係団体・事業者等にも見直しについて協力を求めている。

※校務 DX とは

学校における業務のデジタル技術の活用の推進することで、学校・教育現場における校務を変革していくこと。また校務全般をデジタル技術によって効率化することで、教職員の負担を軽減するとともに、教育活動の質を向上・高度化していくこと。